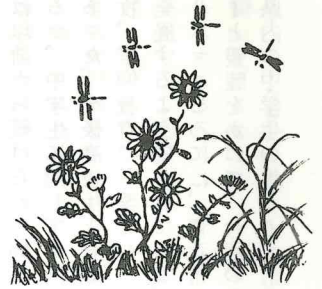


仙台司教区

教区事務所だより



(第 24 号)
昭和54年10月1日

東北キリシタンの聖地

* * 大籠 で 第一 回 キリシタン 祭

東北のキリシタン殉教の歴史が明らかに
なつて久しいが、去る8月26日(日)大籠において
「第一回キリシタン祭」が開かれた。

大籠キリシタン祭実行委員会(米川教会・
佐藤豊)の下に藤沢町観光協会、大籠キリシ
タン史跡保存会、大籠(米川)カトリック教
会(高橋昌神父)が共催、藤沢町教育委員会、
同農業協同組合、同商工会、及び仙台司教区
が後援し、いわば町ぐるみの祭りとなった。

当日はあいにくの雨であったが、約六百名
の参加者の下に大籠小学校で、まず佐藤千教
司教と9名の司祭方による共同ミサが捧げら
れ、農産物奉納を通して地元産業の発展を祈
り、地方色豊かな典礼が人々の心を打った。

ミサ後の記念講演では、当時の大籠の製鉄
技術の高さに驚嘆し、この近辺の住民のすべ
てがキリシタンであったこと等、先人の偉徳
をしのんだ。

アトラクションでは、藤沢中の生徒52名に
よるブラスバンド、黄海中68名の生徒による
マーチングバンド、また大籠中45名によるお
神楽もあり、それぞれ勇壮かつ迫力があり、
参会者を楽しませてくれた。祝宴は、全員が
ひざを交えたなごやかなふんい気の中で開か
れ、婦人会の踊りも興を添えた。

雨天のため、かえってゆっくりできたとの
声もあり、初めての試みだったが各方面の援
助、協力を得て、とどこおりなく終了できた
ことを関係者一同喜んでゐる。

なお、大籠が殉教地となつたのは次のよう
な次第によることが明らかにされている。
一五五八年狼河原(米川)の住人千葉土佐が
製鉄法研究のため備中の国に行き、千松大八
郎、小八郎兄弟について鉄の製練法を学んだ
が、後、この千松兄弟を大籠の地に招聘し、
共に鉄の精練に力を尽くした。千松兄弟は熱

心なキリシタンであつたため、鉄の精練のか
たわら布教につとめ、大籠部落の住民を中心
に近隣の部落にもキリシタンが多くなつた。
フランススコ会士フランシスコ・バラヤス師
が、20年近くもこの地の人々の世話と布教を
ひそかに行なつていたが、仙台で捕えられ、
一六四〇年江戸で火刑に処せられたのと前後
し、大籠のキリシタン約三百名も次々と打ち
首に処せられ、二股川は殉教者の血で染まっ
たと、今も言い伝えられている。

司教様の日程(9月10日現在)

- 9月6日 社会福祉法人理事會
- 12/13日 社会福祉法人役員研修會
- 16日 仙塩地区教会合同運動會
- 18/20日 三教区合同司祭大會
- 22日 亘理教会祝別
- 24日 司牧評議會
- 28日 宗教法人連絡協議會代表者會議
- 29日 磐梯聖ドミニコ會創立10周年並び
に着衣式
- 30日 平教会堅信式
- 10月7日 白河教会堅信式
- 10日 島田実師金祝
- 11日 男女修道會合同役員會
- 14日 カトリック医師會仙台支部總會
- 21/26日 京都教区司祭懇想會指導
- 28日 宮城県信徒大會
- 29日 邦人司祭月例會
- 31日 ケルン大司教ヘッナー枢機卿来仙

若者よ!



ひたすら歩こうではないか!!

第一回仙塩地区夜間ハイク近づく

仙塩地区の司祭集会でかねてからの懸案であつた夜間ハイクを、10月9日の夜から10日体育の日の早朝にかけて行うことになった。この夜間ハイクを通して一人一人に呼びかける神のみ声を聞き、共に何かをするという喜びを体験することができれば幸いである。

若者よ、ただひたすら歩こうではないか。壮年の皆さん 満天の星の下、ロザリオを繰るのでもいいではありませんか。修道者の方々よ、夜を徹して祈るのは、長い長い伝統ではありませんか。

- 対象 中学生以上
- 集合 10月9日午後9時30分 塩釜教会
- 出発 塩釜教会 午後10時

← 利府↓県民の森↓岩切↓東仙台
 ● 到着↓10月10日午前5時元寺小路教会
 (利府街道に沿って、歩道、もしくは自動車道を25km、途中、早坂養吉医師が車で伴走して下さいます。)

● 服装 軽装(防寒、防風のためジャンパー着用) 運動ぐつ

● 持物 雨合羽(又はカサ) ロザリオ

◎なお、10月10日午前11時より島田神父様叙階50周年記念ミサが元寺小路教会で行われます。
 (夜間ハイク責任者 笹気神父)

青森県中学生

第一回練成会開催

去る8月8日から11日までの4日間、八甲田連峰を眼前に望む雄大な自然の中で、第一回中学生練成会が開かれた。青森県内各教会から男女38名の中学生が参加。青森、弘前、八戸の三人の若い司祭、被昇天会のシスター方、大学生、社会人など十数名の指導者、スタッフのもとに、「互いに信仰を見つめ神との出会いを深める」ことをテーマに、有意義な四日間を過ごした。二日目の聖書によるグループ学習、三日目の八甲田登山と、山頂でのミサ、キャンプファイヤーなど、具体的なプログラムを通して教会の将来を担う子供達が共に集うことの喜び、信仰の実感など多くの事を学び取ったに違いない。

青森県では、高校生の県レベルでのこのような練成会は以前から続けられていて今年で五回目になるが、中学生に対しては今年初めての試みであった。今後高校生と合わせて、青少年の司牧、信仰教育の一環として一層この練成会が発展するよう望まれている。

なお、クリスマスごろには、青森市でクリスマスプレーと親睦をかねて、今回の参加者をはじめ、県内の中学生の集まりが計画されている。

宮城県信徒大会

10月28日(日) 一本杉ウルスラ学院で

今年度の宮城県信徒大会は、「わたしたちの福音宣教」のメインテーマで、来る10月28日午前10時より、聖ウルスラ学院中・高等学校を会場にして開催される。大会プログラムは次のとおりである。

- (1) 基調講演 土屋正吉師(イエズス会)
- (2) 分科会

- ① 典礼
- ② 家庭・子どもの宗教教育
- ③ 若者と宣教
- ④ 社会への宣教

(3) 共同司式ミサ(午後3時閉会の予定)
 なお、小学生は映画「兎の眼」の鑑賞、中・高校生は別に分科会がもたれる。大会の詳細は案内ちらしをもらってください、多数の参加を期待している。

ドキュメンタリー映画

『マザーテレサとその世界』

仙台でも10月11日(木)より一般公開

日時 10月11日(木) ①昼の部 午後2時

②夜の部 午後6時30分

場所 宮城県婦人会館

(仙台市錦町一―二〇)

入場料 当日七百円(前売五百円)

(前売券は各教会、聖パウロ書院にあります。)

〃小さな人々の

一人ひとりを見守ろう〃

一 小教区に一難民家族を

カトリック諸機関のインドシナ難民会議が7月16、19日タイのバンコクで開かれ、日本からも代表者が出席した。この会議で、全世界のカトリック教会が難民のためあらゆる手段を尽くすように訴えた。

現在30万人の難民が、ジャングルや海上でさまよっており、小さな船に数千人の人々がひしめきあっており、種々の伝染病、飢餓、衣類の不足等で苦しんでいる。実際に彼らに具体的な救援を行っているのは、国連でも政府でもなく、委託された民間団体、特にカトリック諸機関である。この救援活動を更に推し進めるよう、教皇パウロ・ヨハネ二世は全信徒に、〃一小教区に一難民家族を〃という緊急アピールを出された。

アジアの兄弟がこれ程の苦境に立っている時、私達は、他人事として見て見ぬふりができるだろうか。各教会にもすでに二つの難民救援のメッセージが送られているはずである。このメッセージを祈りの中で静かに味わい、今、私達は、彼らのために、何ができるかを真剣に考えてみたい。

写真展

「日本の子供の顔」

一 岩手カトリックセンターで

盛岡の志家カトリック教会主任シュミドリ

ン神父が、去る7月1日〜8日まで岩手カトリックセンターで日本の子供の顔30点を集めた写真展を開いた。今年も国際児童年でもあり、〃あすに生きる日本の子供の顔〃というテーマは多くの人々の関心呼び、連日観覧者でにぎわった。

師は、来日以来25年間宣教のかたわら、折にふれて写し続けた写真は三万枚にも及ぶ。

これらの写真は、スイス、ドイツ等の雑誌社、通信社に送られ、ヨーロッパの国々に、日本を紹介する記事に使われている。

シュミドリン神父のこの写真展は、岩手日報、朝日新聞地方欄でも紹介された。

秋晴れの下

仙塩地区合同運動会



台風一過、晴天に恵まれた9月16日、東仙台ラサールホーム・グラウンドで、仙塩地区8教会参加の下、合同運動会が行われた。

9時より、佐藤司教司式による野外ミサでまずこの日の恵みを感じ、10時から競技開始。呼び物の教会対抗リレーでは、小学生から各年代男女が出場、走る者、応援する者、共に熱中、おらが教会のためにがんばった。

昼食には東仙台教会心づくしの豚汁がサーブされ、さわやかな秋空の下で食欲も一段と増した様。午後はフォークダンスで幕あけ。銀輪レースでは、お父さん達が子供時代を思い出しながら輪まわしに興じた。

今年の総合一位は塩釜教会で、優勝カップ

と盾が贈られ、二位、三位は、八木山、元寺小路教会となった。連休二日目のこの日、各教会からピクニック気分分で参加した人も多く、心ゆくまで楽しんだ秋の一日であった。

一 敬老の日によせて

おばあさんたち

と共に



私達ガールスカウト宮城4団は、集会所となっている東仙台教会の隣にある老人ホーム〃あけの星荘〃に、15日の夕方から約2時間わたり、おばあさんたちとの集いを行いました。それに当たって私達には、おばあさん達と小さなスカウトたちをまじえての会をどのように進めていったらよいかという心配感と、是非とも成功させたいという意気込みがありました。しかし、その心配感はおばあさん達と会った瞬間、消えうせてしまいました。いっしょに歌をうたったり、踊ったり、お互いに心の底から楽しむ事ができました。きつとそれは、おばあさんたちのあたたかい心と私達の強い意気込みがひとつに溶け込んだからに違いありません。

私達はこの会を通して、おばあさん達から真の愛情を学びとったような気がします。

会を終えた今、私達の心の中には朝の秋風のようなさわやかさが満ちています。

世界中のおじいさん、おばあさん、いつまでもお元気でいてください。

(東仙台教会ガールスカウト宮城4団)

上
テレフォン
紙
サービス



日曜ミサが終わってからの在り方

日曜日のミサが終わると義務を果たしたとばかりそそくさと家路に急ぐ人。神父様とにこやかにおしゃべりしている人達を横目に、話し相手もないままに寂しく帰る人…。

こんな風景が、もしかしたら、まだどこかの教会で見受けられるのではないでしょうか。日曜ミサの後の兄弟としての交わりを、どんな風にしたらよいか、豊田神父様（大河原教会）にお伺いしました。

* * *

植木が茂ると害虫がつきやすくなる。思い切りせん定すると風通しがよくなり、生気なく。話し合いがよく通じる家庭は、悶着のタネも少ないようだ。

小教会では、信者同士が黙して語らないと活気がなくなる。悟り切った人達の教会なら話は別だが。よどみや沈殿が大きく深くなると、メタンガスがたまり爆発寸前の空気となる。月に一度でも、ミサの後、お互いに話し合いの時間を持つてはどうだろうか。齢いの重みで、脚がナントカ現象で歩行困難、うちの息子がこのごろ少し変だ、とか、身近なことでも、お互い思いやりの心があれば話題も

弾むものだ。

小教会ともなれば、維持費、信徒会費、婦人会費、洗礼、結婚、病人のお見舞い、お葬式、墓地、命日、転出入、聖堂掃除当番、カトリック新聞、雑誌、書籍の内容など、もつともつと大事なお話、救霊のことを…。

小教会で月に一度、思いきりおしゃべりしてスッキリしてみては。心の視野が広がるように。

『知恵を尽くして互いに教え励ますことができるように』（コロサイ3章16節）

教会学校めぐり



(4)

須賀川教会

当教会では信者数も少なく、信者の子供だけの教会学校は出来ませんでしたので、一般の子供を募集しました。

教会学校を始めたのは昨年からです。集まった子供は15名、三年生から六年生まででした。楽しく一語に英語と宗教を、ということに神父様が英語を一時間、信者が宗教の時間を一時間、土曜日一時半から三時半まで致しました。

子供達は教会の近所の子供。幼稚園は近所のプロテスタントの幼稚園を出た子供が多いので、お祈りや聖書も少しは知っております

ので初め少しざわめきましたが、意外と早く学校にも慣れ、楽しく勉強しました。

月一回、学んだことについてビデオを見せ、作文や絵をかかせました。クリスマスには聖劇も子供向けのシナリオを書いて、結構父兄も喜び、子供達も本当のクリスマスの意義を理解したようです。又、英語の歌五曲くらいを、聖歌隊のように白い服を着せローソクをともして歌い、よいクリスマスの印象を残したようです。

二年目は、残った生徒と一語に22名。昨年の子供は中級組、今年入った子供は初級組に分けて始めております。三年四年組は男子が多いので少しやんちゃですが、活発に質問を致します。前にも申しましたように、信者の子供は二、三人で、後は未信者の子供達です。でも、キリストがおいでになつたのはすべての人たちに救いをもたらすためですので、それを主点としております。ミサに月一回くらい参加させたいと思っておりますが今のところ無理なので、御復活祭、聖母被昇天祭、御降誕祭にはミサに父兄共に参加させております。特に聖母被昇天祭には、子供のための納涼パーティーを開いて、父兄ともどもミサやゲームをして夏の夜を楽しみます。

これらの子供達がいづの日にか、楽しかった教会学校を思い出して宗教心を抱く日が到来するならば、その時初めて教会学校も実りを見るでしょう。その日を待っております。

教材は小学生の聖書、こじか、英語の本、現代っ子の信仰教育、を使用してあります。



今年の夏も各教会で青少年を中心に種々のプランがあった事でしょう。編集部に寄せられたものの中からいくつか御紹介しましょう。

◎ 久慈教会 8月4、6日、土曜学校の修養会が28名の参加で行われた。「マリアさま」というテーマで五日の夜は自分達の勉強したものを、みこしに作り、マリア祭を祝った。

◎ 浪打教会 青森県の黒石、野辺地、五所川原の教会と合同して8月1・2日、小湊よし山でサマースクールを開いた。

◎ 元寺小路教会 8月1、3日、十八成浜で約40名の子供達と9名の指導者と共に夏期学校を楽しんだ。又、中学生は8月2、5日、気仙沼教会で「発見」というテーマで、気仙沼教会の中学生も参加して、土井勝悟師の指導で合宿した。

◎ 量屋町教会 8月3、5日、亘理の信徒の家庭を開放していただき、20名の子供達が楽しい夏期学校を過ごした。

◎ 塩釜教会 1初聖体を受ける子供達を中心に、教会付幼稚園で8月11、13日まで夏期学校が行われた。

サマースクール

五所川原教会 二年 武井 聰

ぼくは、八月一日と二日の日、きょうかいのサマースクールに行きました。ぼくは、さいしょどきどきしましたが、はじめてあった

特集 ともだちの夏

ともだちといろんなことをしてあそんだのでとても楽しかったです。だげどキャンプファイヤーの時、ぼくは、うちにかえりたくなっただけがまんしました。みんなの名前を書いたTシャツをもらったので、ぼくはねる時、いつもバジャマのかわりにきています。よそにとまったのは、生まれてはじめてです。だから夏休みのよいおもいでになりました。

夏期学校について
塩釜教会 四年 丹野亜希子
高山海がんに行き、みんなといっしょに楽しくおよぎました。そのほかに、すいかわりやゲームもありましたが、わたしは、たからさがしが一ばんおもしろかったです。それは、すなをほったところがおもしろかったからです。かえってから一人ずつシャワーをあびました。とても気もちがよかったです。夕食もおなかがすいていたのでおいしかったです。

夜にやった花火もとてもきれいでした。三日間、つかれたけど、とても楽しかったです。

第一回中学生練成会に参加して

浪打教会 横内麻美

私は最初、この中学生練成会には、知らない

塩釜教会提供

	朝	昼	夕
8/11 (土)		・おべんとう ・つけもの ・麦茶	・スパゲッティ ・ミートソース ・コンソメスープ ・サラダ
8/12 (日)	・ごはん・さけり ・みそ汁・納豆 ・たまごまぼん	・カレーライス ・福神茶 ・麦茶	・ちくし・ホレ ・麦茶 (カルピス)
8/13 (月)	・パン・牛乳 ・マカロン ・ジャム ・サラダ	・おむすび ・さけりの漬物 ・トマト	

い人が多いので、友達ができるか心配でした。でも、一日、二日とたっていくうちに、だんだん友達ができてきました。今では、参加して本当によかったと思います。三日目の登山は、この四日間の中で一番印象に残っています。初めは元氣よく出発した私ですが、帰りはへとへとになってしまいました。途中、仙人平で飲んだ水の冷たくておいしかったことは、今でもよく覚えています。小岳の山頂から見た景色は、ものすごくきれいでした。辺り一面緑一色という感じで、アゲハやハチも飛んでいました。そこでやった御ミサは、とても気持ちよく、神様の国がすぐ近くにあるような気がしました。

